2014（平成26）年度　課題研究題目一覧

【現職院生】

青 木　愛	英語を書くことへの苦手意識を改善するための指導方法 ― Dictogloss を活用してメモから始める―
浅見　信彦	知的障害特別支援学校における ICT 機器を活用した授業に関する研究 ―中重度の知的障害児を対象とした国語の授業を通して―
荒井　友香	授業力向上をねらいとした人材育成の在り方 ―指導教諭の意義と職務―
遠藤　貴子	一人一人の子供に寄り添う学級づくり ―子供たちの言語背景に注目して―
大塚　啓介	小学校理科授業に焦点を当てた授業改善システムの構築 ―教師の授業への取り組み意識の改善を目指して―
北中　啓勝	社会的事象の意味を捉えさせるための小学校社会科授業に関する研究 ―問題解決的な学習への協働型学習の位置付けと教師による足場かけによって―
佐藤　将宏	学校の組織力向上に関する一考察 ―校内研究の効果的な活用を通して―
重岡　勝之	小中一貫教育をいかした学力向上 ―「協働」による授業改善を核として―
菅野　恭子	小学校における力のあるミドルリーダーの育成 ―管理職による主任教諭へのアプローチを通して―
田口　善行	特別支援学校のセンター的機能の実態把握 ―都立高等学校における知的障害特別支援学校高等部支援に焦点をあてて―
田島　準章	通常の学級における特別な配慮を必要とする児童を包括する支援の在り方 ―ユニバーサルデザインの視点をふまえた算数の授業を通して―
中森　千穂	学習への「好き」な気持ちを高める手立ての導入と活用 ―夢中になって活動に取り組む図画工作科の実践をもとに―
野村　宏行	小学校における日本人としてのアイデンティティを育成する学習の創造 ―教育活動全体で育み、道徳の大主題学習で深める―
樋口　誠子	東京都立高等学校における校内授業研究の組織化 ―校内授業研究の現状を踏まえた活性化への提案―
藤原　隆博	混成型テキストの読解力を向上させる小学校国語科と算数科の関連的な 学習指導の方法
紅谷　昌元	教師の指導態度が児童の学級満足度に及ぼす影響 ―教師同士の授業のリフレクションを工夫して―

【学卒院生】

雨宮　光平　「問題解決の授業」における教師の指導の在り方
―中学校１年生関数領域を中心に―

宇野　友貴　『自らが伝える言葉の力』を高める学習と手立ての構成
―中学校国語科の話す活動における目的、相手意識を捉えて―

浦瀬　慎也　生徒の知的好奇心を引き出す中学校社会科の授業
―学習問題の工夫より―

坂本　有紀　生徒の学ぶ意欲を高める中学校社会科授業の工夫
―「実感」を促す手立てを取り入れた文化史授業を通して―

佐々木広明　学習意欲を高めるための授業における児童の発言の受け止め方の研究

佐藤　彰利　物理教育における科学的概念の形成を促す実践的研究
―概念変化に着目して―

杉 本　龍　生徒の学習意欲を高める中学校社会科歴史教育の在り方
―授業のユニバーサルデザイン化を通して―

中村　裕之　社会に対する関心を高める中学校社会科の授業
―内的必要感・内的関係性をもたせる授業を通して―

信沢　直明　高等学校における生徒の視点・実態を基にした数学科の授業改善

平沢　直樹　教職課程でギフテッド教育（発達障害児等教育）を学ぶ意義
―「障害理解」「法的根拠」「発達障害児等がもつ才能の特徴」の３観点から―

宮 内　瞳　数学の「例題」に着目した指導法の考案
―グループ学習を取り入れた活動を通して―

矢口　弘士　中学校社会科における生徒の社会認識形成を“促す”授業づくり
―学びの当事者意識を喚起する手立てを通して―

吉井　亮太　いじめの深刻化を防ぐ指導法の考案
―学級活動における学習を通して―

2014（平成26）年度における主な学事・行事

月・日	主な学事・行事等
４月　１日	現職教員説明会
４月　３日	入学式、新入生オリエンテーション
４月　４日	実習説明会、主指導教員との顔合わせ、 学卒２年による授業科目説明会
４月　７日	進路指導説明会
４月　８日	春学期授業開始
４月１７日	課題研究オリエンテーション
４月２４日	運営会議
５月１７日	大学院説明会
５月２２日	運営会議
５月２３日	学校フィールドワーク①（グループ内の研修校）
６月　６日	学校フィールドワーク②（グループ内の研修校）
６月２０日	学校フィールドワーク③（希望校別）
６月２６日	運営会議
６月２７日	学校フィールドワーク④（希望校別）
７月２４日	運営会議
７月２５日	カリキュラム評価、創成研修全体ミーティング
７月２９日	春学期授業終了
７月３０日	課題研究グループ別集中検討会
８月　２日	大学院説明会（教職大学院）
９月	１０日間連続実習
９月２５日	運営会議
１０月　２日～　３日	課題研究中間報告会
１０月　６日	秋学期授業開始
１０月２３日	運営会議
１０月２５日～２６日	大学院入試Ａ日程
１１月２７日	運営会議
１２月　６日	教職大学院協会フォーラム
１２月　７日	教職大学院協会シンポジウム・ポスターセッション
１２月２５日	運営会議
１２月２６日	年末年始休業前授業終了
１月　５日	年末年始休業後授業再開
１月２２日	運営会議
１月２９日	カリキュラム評価、創成研修全体ミーティング
２月１０日	秋学期授業終了
２月１２日	課題研究グループ別発表会
２月２１日	大学院入試Ｂ日程
２月２６日	運営会議
３月　２～３日	課題研究成果報告会
３月　３日	巣立ちの会
３月　９日	運営協議会
３月２０日	学位記授与式
３月２６日	運営会議

『東京学芸大学教職大学院年報』刊行規定

第１条　東京学芸大学教職大学院は、『東京学芸大学教職大学院年報』（以下、「年報」という）を年１回刊行する。
第２条　年報の編集は、運営会議の議を経て、教職大学院長が任命した編集委員５名によって構成する編集委員会によって行う。
第３条　年報は、研究論文、実践研究論文、教職大学院における授業実践報告、課題研究の報告、同窓会からの報告などで構成する。
第４条　投稿者の資格は、原則として教職大学院の教員、修了生、大学院学生、編集委員会が認めた者とする。
第５条　論文等の掲載の可否は編集委員会の審査によって決定する。
第６条　年報に掲載された論文等の著作権は教職大学院に帰属する。
第７条　年報に掲載された論文等は、web 上に無償で公開するものとする。
第８条　この規定の改廃は、運営会議の議を経て行う。

『東京学芸大学教職大学院年報』投稿規定

1. 投稿できる原稿は未刊行のものに限る。
2. 投稿を希望する者は、4 月 30 日までに編集委員会に対し、投稿申込票により申し込むこと。メールによる申し込みも可とする。
3. 投稿申込票を受理された者は、9 月 30 日までに、完成原稿 2 部と電子媒体を提出すること。
4. 投稿論文等は返却しない。
5. 投稿申込票及び投稿論文等は、以下の宛先に送付すること。

〒184-8501　東京都小金井市貫井北町 4－1－1
東京学芸大学教職大学院永田繁雄研究室気付
教職大学院年報編集委員会
メールアドレス：nagata@u-gakugei.ac.jp

『東京学芸大学教職大学院年報』執筆要項

1. A4 判用紙を縦位置で使用し、横書きとする。
2. 40 字×40 行を 1 ページとする。投稿原稿は 12 ページ以内とする（図表、注、参考文献を含む)。
3. 余白は上下左右とも 35mm、ポイントは 10.5 とする。フォントはＭＳ明朝体とする。
4. 最初のページにタイトル、氏名、所属を記す。本文は 5 行目から始める。
5. 英文の単語をはじめ、英文および数字は原則として半角入力で行う。
6. 文献の記載については、著者名、書名又は論文名（掲載誌名を明記)、出版社、西暦年号、ページの順で示す。
7. 引用・文献注は、本文と同じ書式で作成し、自動脚注を使用しないこと。
8. インターネットによる資料の注には、URL とともに最終アクセス日を記すこと。
9. 写真や図版の掲載については、執筆者に実費を求めることがある。

東京学芸大学教職大学院年報　第４集

2016（平成 28）年 3 月 18 日　発行

発行者：東京学芸大学教職大学院

〒184-8501　東京都小金井市貫井北町 4-1-1

電話　042-329-7707

印刷所：サンプロセス

〒207-0012　東京都東大和市新堀 1-1435-29

電話　042-561-8810